

令和3年8月25日

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

石川県		
学校名	管理機関名	設置者の別
石川県立金沢泉丘高等学校	石川県教育委員会	公

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等
石川県立金沢泉丘高等学校	<a href="https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/izumih/SGH">https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/izumih/SGH</a> 推進室/ 令和2年度特別の教育課程の 自己評価結果について	<a href="https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/izumih/SGH">https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/izumih/SGH</a> 推進室/ 令和2年度特別の教育課程の学校関係 者評価の結果について

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代に求められる「多面的に考え、多角的に行動する力を持ったグローバルリーダー」を育成するため、課題研究の基盤づくりとして、普通科1年次において、必修科目「現代社会2単位、社会と情報1単位」に替えて「SG思考基礎3単位」を新設し、「社会と情報」は1単位実施とする。「SG思考基礎」では「現代社会」の基礎知識・理論に加え、科学的思考法・議論・表現力の演習を実施し、2,3年次における探究的な学びにつなげる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

- (ア) 本校は本県の中核校であり、今後必要となる探究活動のノウハウを積み上げ、県内他校へも波及させる役割を担うべきだと考える。
- (イ) 本校はグローバルリーダーのみならず、グローバル人材を育成すべき学校であり、そのためには深い探究活動が必要である

(3) 特例の適用開始日

令和2年4月1日

(4) 取組の期間

令和2年4月1日～令和4年3月31日(予定)

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

#### (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

#### (2) 実施状況に関する特記事項

SGH推進室の担当者が中心となり、授業担当者と年間計画の立案、新しいプログラムや改善点の検討を行っており、常にPDCAサイクルを機能させ実施できる体制を確立している。

#### (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

#### <特記事項>

保護者には随時活動内容を広報するとともに、地域住民には年1回の学校公開時や学校評価者委員会の場で教育課程や活動の意味や意義について説明する場を設けている。

### 4. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係 本特例は、以下の目標に向け実施するものである。

- (ア) グローバル社会における諸問題を考察するために必要な知識と視点を獲得するとともに、科学的な思考力を身につけ、ものごとを文理両面から捉える力を涵養する。
- (イ) 「環境・エネルギー」と「豊かさとコミュニティ」について研究・調査するための土台をつくる。
- (ウ) SDGsなど、現代の社会的事象・課題に対する関心・問題意識を醸成する。

以上の目標は、SGHの5年間と合わせ、6年間にわたり教育課程の特例を活用することでおおむね達成できることがわかった。一方で、「SG思考基礎」で扱う内容と総合的な探究の時間「SG探究基礎」が重複する、という課題が次第に顕在化してきた。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

これからの社会で求められる資質・能力の育成に向け、文理横断的・異分野融合的な知を備えた人材の育成、探究手法や指導体制の確立、教科等横断的視点からのカリキュラム・マネジメント等により教育活動の質の向上を図ってきた。その軸となる教科・科目等として「SG思考基礎」や「総合的な探究の時間」が位置付けられている。

## 5. 課題の改善のための取組の方向性

4（1）に示した課題を踏まえ、令和4年度からの新学習指導要領実施に伴い、特例を用いるのではなく、既存の教科・科目等により教育課程を編成し、これまでと同等以上の教育効果をねらう。具体的には、

- （ア）「総合的な探究の時間」での課題研究を軸とし、1・2年生の通常授業も含めた教科横断・教科連携的なプログラムに組み直す。
- （イ）そのモデルとして、環境問題の1つである海洋ごみの現状を知るフィールドワークと、国・英・理・社の授業における事前・事後学習を組み合わせた取り組みが考えられる。
- （ウ）SDGsなどの社会課題を通常授業との関連の中で探究する活動は、本校でこれまでSGHやSSHとして取り組んできたところである。今後さらに、カリキュラム・マネジメントを進めて（イ）のようなプログラムを開発・実施し、他校と連携した課題研究の実施や、他校への探究活動のノウハウの普及を図る。